



## ～ 庁舎建設基本計画を策定しました ～

令和3年度から本格的にスタートした庁舎建設事業については、庁舎建設検討委員会でのワークショップや町民アンケートを行い、そのいただいた意見を基に、このほど庁舎の規模、機能、整備手法、スケジュール、概算事業費など今後の設計の指針となる基本計画を策定しました。今回はその主な内容についてご紹介します。

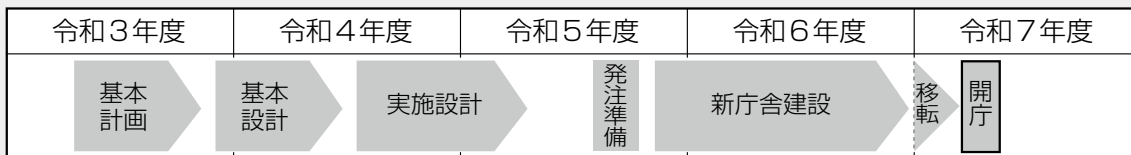
### 1. 建設場所

河岐地内パチンコ店敷地、駐車場一帯に建設します。



### 2. 建設スケジュール

開庁は令和7年5月を予定しています。令和4年度は建物の完成イメージや設備などの大まかな仕様を決める基本設計及び工事発注に向けたより詳細な実施設計を行います。



### 3. 庁舎の大きさ

新庁舎の延床面積は2,900m<sup>2</sup>程度を想定しています。現庁舎の面積は約2,300m<sup>2</sup>で、ワークショップやアンケートで意見のあった多目的スペースの導入と保健福祉課（保健係除く）の入居を見込んでいますので少し大きくなりますが、今後の基本設計の中で更にコンパクトな整備を目指していきます。

### 4. 新庁舎の整備方針

災害発生時に防災拠点となる頑丈な庁舎であることはもちろん、なるべくいろいろな手続きが役場の1階でできるように窓口機能を集約したり、バス待合所や子どもが安心して利用できるスペース、気軽におしゃべりができるような空間を設けるなど、町民の皆さんにとって便利で、役場に用事がなくてもちょっと寄りたくなる場所にしたいと考えています。

### 5. 建設事業費

新庁舎建設にかかる費用は設計などの委託費、新庁舎建築費、外構工事費、備品などの購入費、建設用地の土地購入費などで、総額18億円程度と見込んでいます。

建設費の財源は、補助金を3,000万円程度と見込み、庁舎整備のために積み立てた基金（貯金）を14億円取り崩し、残りの3億円は借金をします。借金をすることは、50年以上も使う役場庁舎の建設費用を将来の町民の方にも負担していただくことになり、負担の公平性を確保するという目的があります。借金をしても、町の財政を悪化させるほどの影響はなく、現在の行政サービスが縮小や廃止されることはありません。

事業費		財源	
調査設計費	2億円	国・県補助金	0.3億円
建築工事費	13億円	町債（借金）	3億円
外構工事費	1億円	基金（貯金）	14億円
その他（用地、備品等）	2億円	一般財源	0.7億円
計	18億円	計	18億円

※基本計画の内容は、白川町ホームページでご覧になれます。

